



5. 河川整備計画の方向性

5.1 治水に関する事項

5.2 利水・環境に関する事項

■ 治水に関する現状と課題

現状と課題

- ・汐川本川は、中下流部は暫定計画に基づいた整備が実施済であるが、上流部の未改修区間(約5kから上流)では1/10の降雨に対して流下能力が不足しており、浸水も発生している。
- ・清谷川、庄司川は1/5の降雨に対して、概ね流下能力を有している。
- ・宮川は、未改修区間を除き、1/5の降雨に対して、流下能力を有している。
- ・青津川は、1/5の降雨に対して、概ね流下能力を有している。
- ・大日川は、中流区間を除いて1/5の降雨に対して流下能力が不足している。
- ・高潮対策について、海岸保全基本計画の見直しに伴う高潮堤防の整備が必要である。また高潮区間にある豊橋鉄道渥美線橋梁は高潮位に対して高さが不足している。
- ・地震・津波対策は、耐震点検の結果、堤防等の耐震性能は確保されている。

アンケート

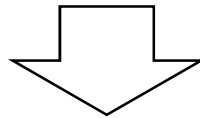
- ・流域住民の約5割の方が水害に対して不安を感じている。特に汐川、大日川で不安を感じている方の比率が高い。
- ・川の将来像として、約4割の方が水害に対して安全な川を望んでいる。

■ 河川整備計画の目標(治水)

■ 対象期間：概ね30年間

洪水や高潮等による被害の発生の防止または軽減に関する目標

- ・洪水や高潮等による災害の防止または軽減を図るために、河川改修等を実施



方向性

【洪水対策】

- ・河道改修区間は過去の浸水実績、整備状況、周辺状況を勘案し、汐川の中流から準用河川汐川合流点にかけての区間は、年超過確率1/10の規模の降雨による洪水を安全に流下させる整備を行い、大日川下流及び宮川上流においては年超過確率1/5の規模の降雨による洪水を安全に流下させる整備を行う。
- ・汐川の準用河川汐川合流点より上流は浸水被害もなく資産の集積も見られないため、整備対象としない。
- ・大日川上流部は堀込河道となっており、堤防高評価で概ね年超過確率1/5の流下能力を有しているため、整備対象としない。

【高潮対策】

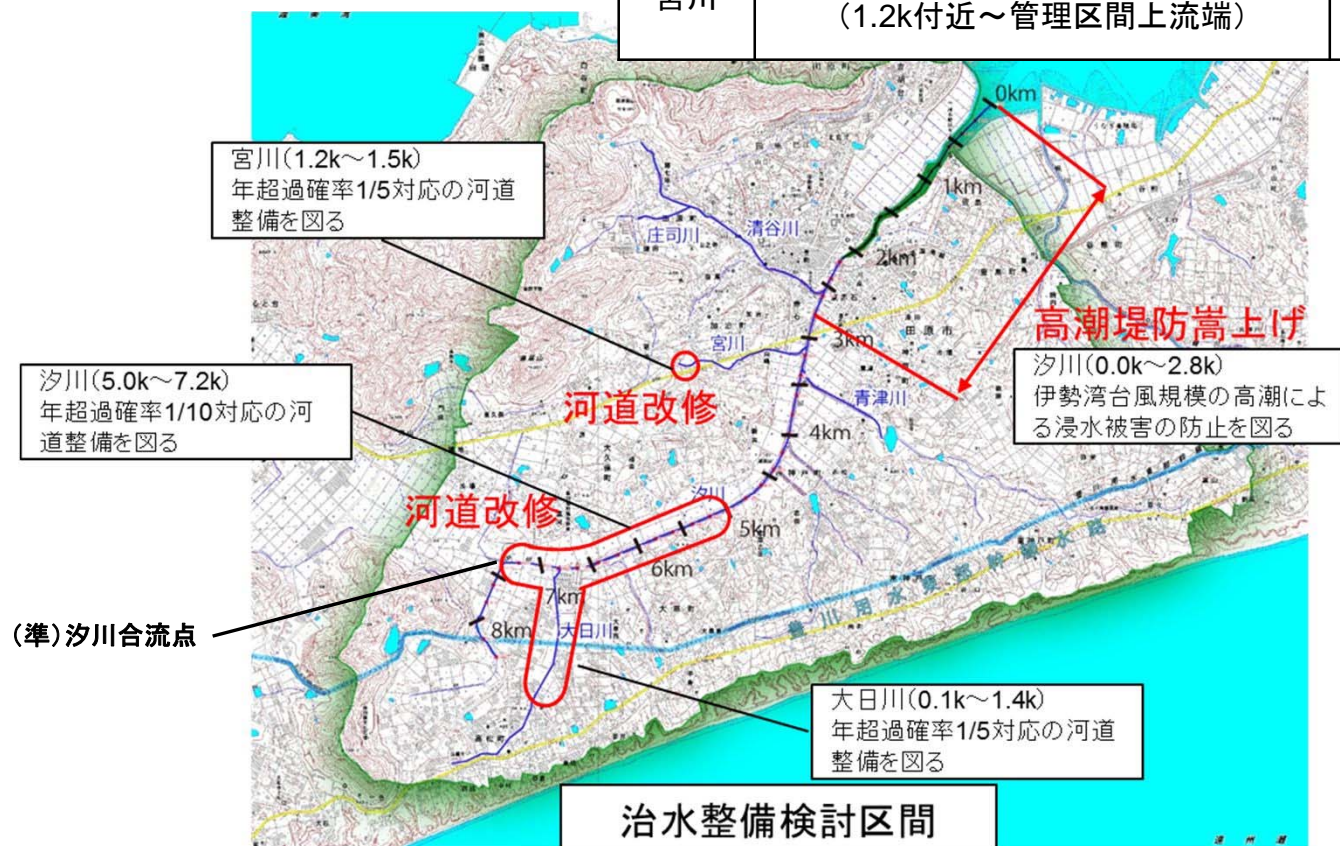
- ・海岸保全基本計画の見直しに伴い潮位偏差を見直した伊勢湾台風規模の高潮に対応した高潮堤防の整備を行う。

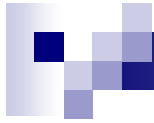
【地震・津波対策】

- ・最大クラスの津波による津波浸水想定を踏まえ、施設画面上の津波を上回る規模の津波に対し、ハード・ソフトの施策を組み合わせた「多重防御」による津波防災地域づくり等と一体となって減災を目指す。

治水整備の実施に関する事項

| 河川名 | 施行場所 | 延長 | 主な工事内容 |
|-----|---------------------------------|--------|-----------|
| 汐川 | 0.0k～約2.8k (河口～ふれあい橋上流) | 約2.8km | 高潮堤防整備 |
| 汐川 | 約5.0k～約7.3k (坪井橋～(準)汐川合流点) | 約2.3km | 河床掘削・河道拡幅 |
| 大日川 | 約0.1k～約1.4k (汐川合流点～大日橋) | 約1.3km | 河床掘削・河道拡幅 |
| 宮川 | 約1.2k～約1.5k (1.2k付近～管理区間上流端) | 約0.3km | 河床掘削・河道拡幅 |





5. 河川整備計画の方向性

5.1 治水に関する事項

5.2 利水・環境に関する事項

■ 利水・環境に関する現状と課題

現状と課題

- ・流域の農業用水は、二次支川庄司川に慣行水利権がある他は、豊川用水により賄われている。
- ・汐川干潟を含む汐川下流部では塩性植物や、砂泥底の干潟・浅場を好むハゼ類がみられるなど、良好な汽水環境の特徴を有している。
- ・汐川中流部ではフナ属、オイカワなどのコイ科淡水魚が優占するほか、メダカやアユも確認されており、ところどころで河床変化がみられる。
- ・汐川上流部ではヤリタナゴやドジョウ等の淡水魚の他、カダヤシ、オオクチバスなどの特定外来生物も確認されている。また河道はコンクリート護岸が多く、直線的で単調な河川環境となっている。
- ・水質は、全体として改善傾向にあり、近年では環境基準(E類型)を満足している。
- ・汐川河口部では自然観察会等が実施されているほか、清谷川上流、庄司川ではホタルの保護活動が行われている。
- ・汐川の清谷川合流点付近及び清谷川と庄司川の一部では散策路が整備されている。

アンケート

- ・自然については水系全体で見ると「自然が豊かな川」という回答が多いが、各河川で見るとばらつきがあり、宮川、庄司川、清谷川では「自然が豊かな川」という回答が多い一方、汐川、大日川、青津川については「自然が少ない川」と感じている人が多い。
- ・魚やホタルの多い川づくりを求める自由意見が多く、魚取りができる川などを望む回答があった。
- ・流域全体では「散歩・ジョギング」の利用者が多く、次いで「通勤・通学経路」の割合が高い。宮川、庄司川では「環境活動・自然観察」の割合が多い。

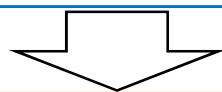
■ 河川整備計画の目標（利水・環境）

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

- ・関係機関と連携し流水の正常な機能の維持に努める。

河川環境の整備と保全に関する目標

- ・動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生に努める。
- ・利用状況等を踏まえ、関係機関や地域住民と連携し親水空間や河川景観の形成に努める。
- ・関係機関や地域住民と連携を図り、良好な水質となるよう改善に努める。



方向性

【流況等の把握】

- ・流水の正常な機能の維持のため、流況の把握に努める。

【動植物の良好な生息・生育環境の保全・再生】

- ・汐川干潟などの良好な汽水環境の保全や瀬、淵、水際植生の保全など、治水との整合を図りつつ、動植物の良好な生息、生育、繁殖環境の保全に努める。

【川と人とのふれあいの場の維持・形成】

- ・地域住民の利用状況や要望等を踏まえて、関係機関や地域住民と連携し、階段など人々が川に近づける親水施設等の維持・形成に努める。

【良好な景観の維持・形成】

- ・関係機関や地域住民と連携し、河口・下流域の都市景観、上流域の田園風景等、周辺環境と調和した景観の維持・形成に努める。

【水質の改善】

- ・河川の利用状況、水利用状況、動植物の生息・生育・繁殖環境等を考慮し、関係機関や地域住民と連携を図り、良好な水質となるよう改善に努める。